KOTO 取扱説明書

IBC-200

(抜取専用)ブレーキオイルエキストラクター

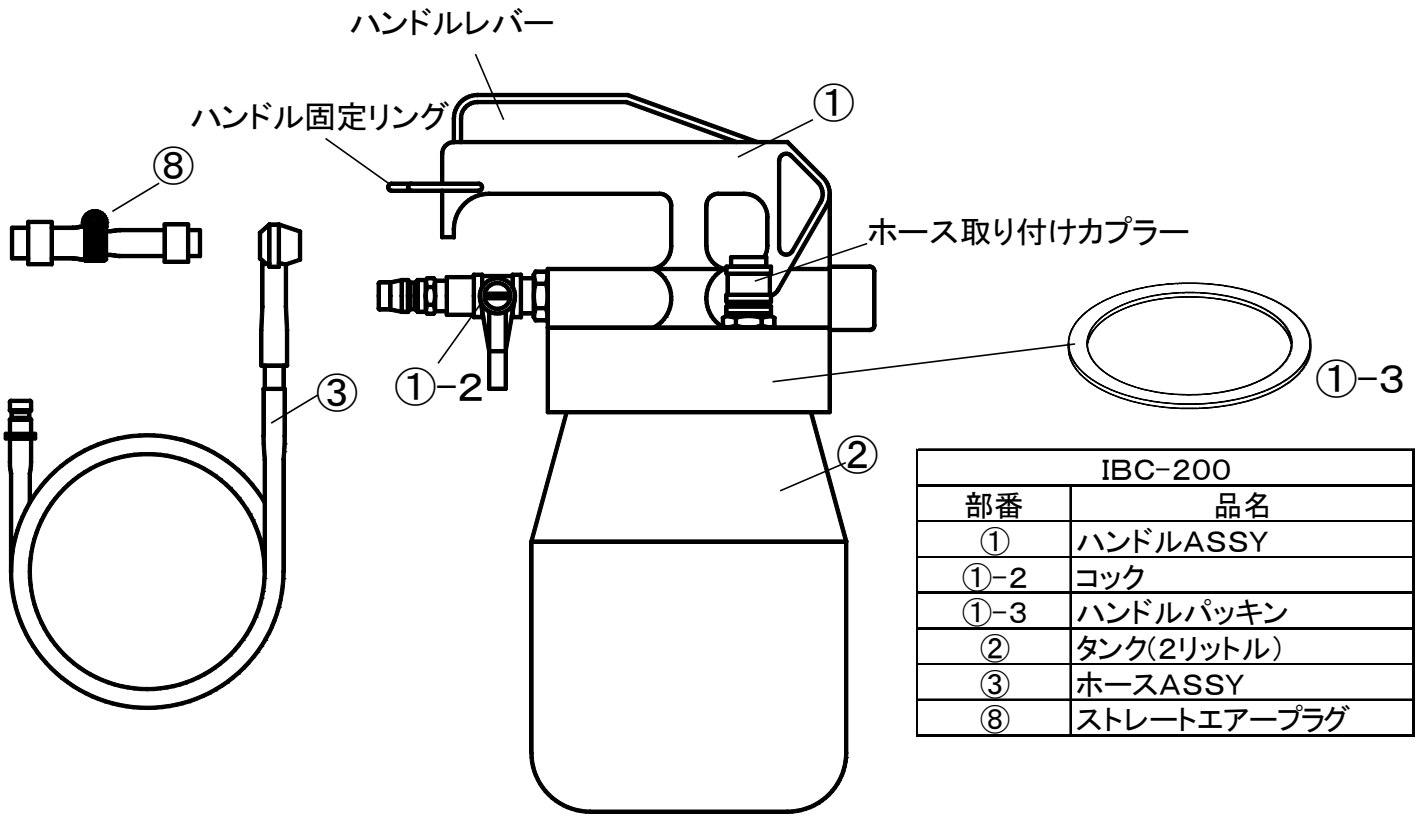
※この度は KOTO 製品をお買求め頂きまして誠にありがとうございます。

※ご使用前に必ず本取扱説明書をお読み頂いてからご使用下さい。

～適応範囲～

・適応車種:二輪車～小型トラック迄

～部品名称～



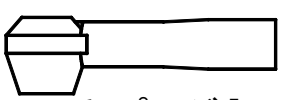
IBC-200	
部番	品名
①	ハンドルASSY
①-2	コック
①-3	ハンドルパッキン
②	タンク(2リットル)
③	ホースASSY
⑧	ストレートエアープラグ

タンク容量:2リットル

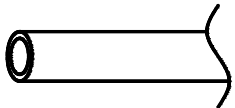
～作業前に～

◎本製品のノズルは3パターンあります。

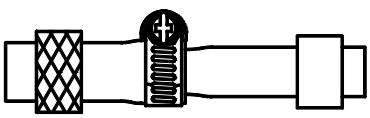
◎用途・状態により使い分けてご使用下さい。



『ブレーキプラグ』
部番:IBC-200-3-3



『ホース(エアープラグを抜いたホース)



『ストレートエアープラグ』
部番:IBC-200-8

◎『ブレーキプラグ』及び『ホース』はブレーキの配管内にエアーが入っている恐れがない場合（ブレーキオイル交換時等）にご使用下さい。

◎『ストレートエアープラグ』はエアーが混入しているか確認出来るので、パーツ交換等した場合にご使用下さい。

～作業手順～

1. エアーコンプレッサーのエアー圧を0．5MPa～1．2MPaに調整してからご使用下さい。

2. ハンドルASSYとタンクがしっかりとねじ込んであるか確認して下さい。

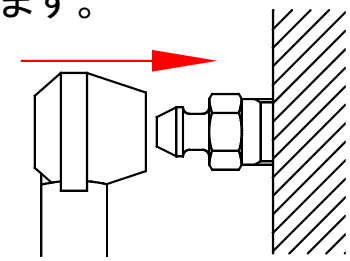
3. ホースASSYをハンドルASSYのホース取付け口に接続します。

4. 全てのコック類がOFF状態（空気・液体が流れない状態）でエアー（カプラー）を接続します。

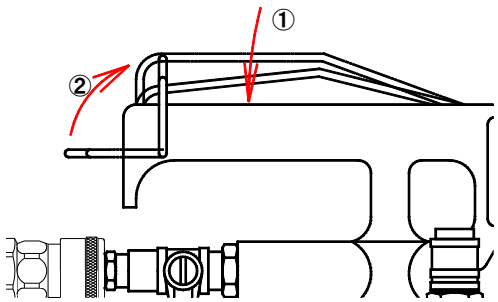
5. 各ノズルをブレーキ側のブリーダーに差込ます。
（参考イラスト1参照）

6. ハンドルレバーをハンドル固定リングでONの状態に保持します。
（参考イラスト2参照）

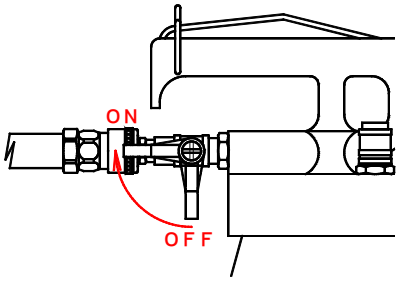
7. コックを開き吸引します。（参考イラスト3参照）



《参考イラスト1》



《参考イラスト2》



《参考イラスト3》

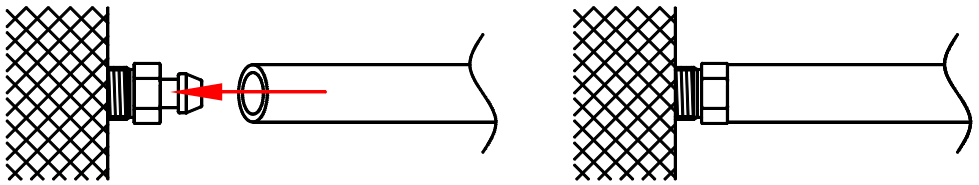
※微妙なエアー流量調整を行う場合はコックの開閉若しくはレギュレーターを使用して行って下さい。

※その他の作業方法は整備書をご確認の上ご使用下さい。

『各ノズル』接続使用例

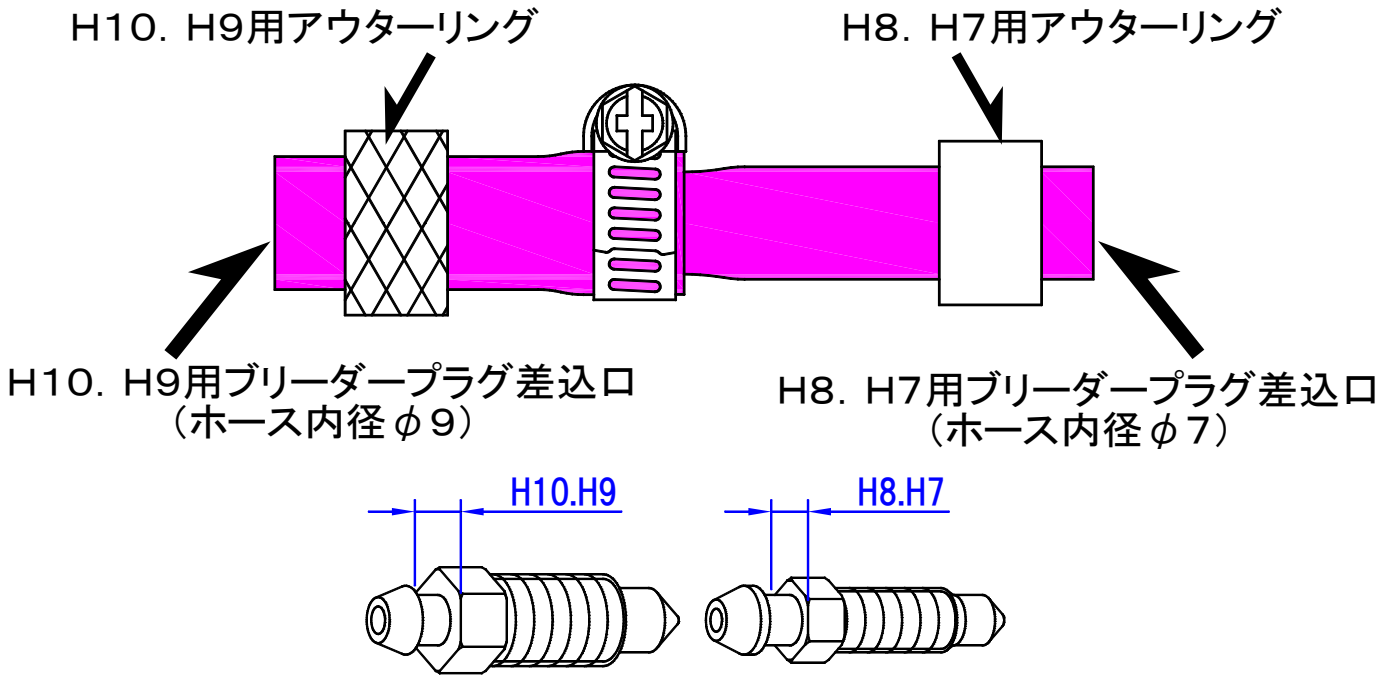
◎『ブレーキプラグ』はP．2《参考イラスト1》参照

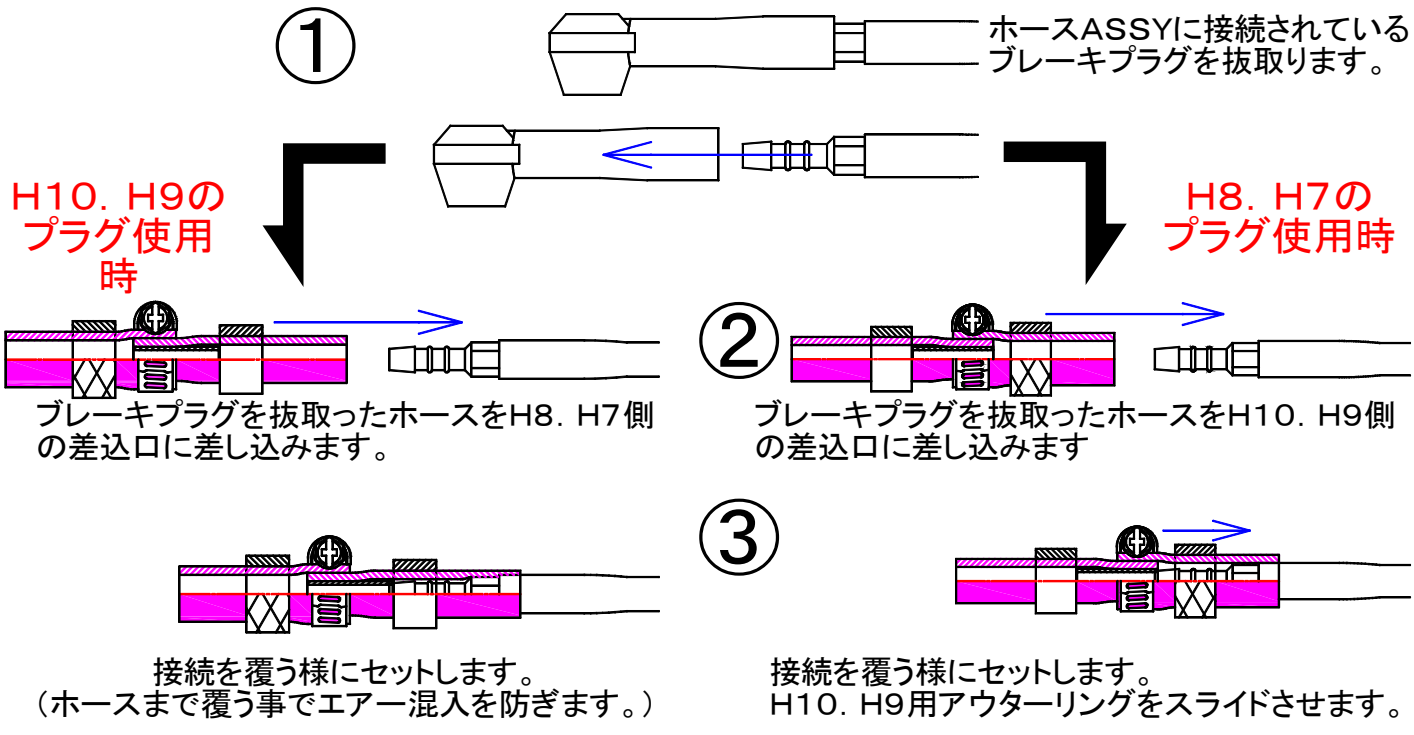
◎『ホース』使用例



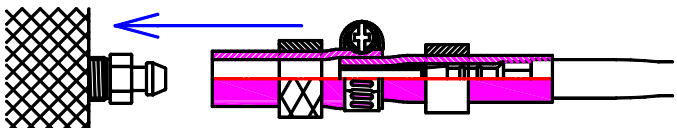
プラグの6角寸法によりホースを奥まで差し込んで下さい。

◎『ストレートエアープラグ』使用例

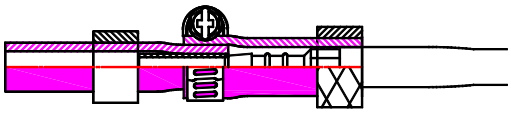




④

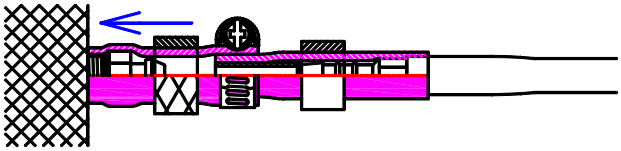


指先で廻る位に緩めたブリーダープラグに『H10．H9差込口』を差し込みます。

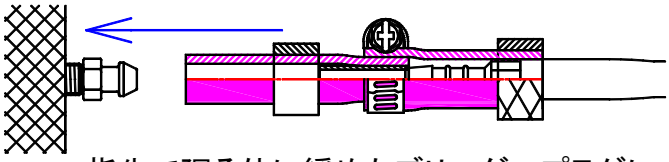


リングをホース先端まですらします。

⑤

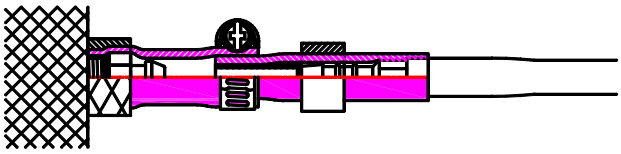


『H10．H9用アウターリング』をブリーダープラグと重なる様にスライドさせます。

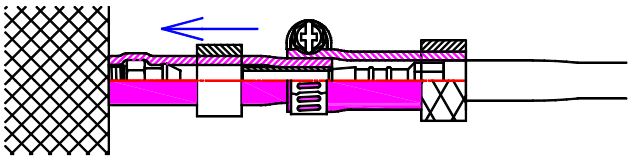


指先で廻る位に緩めたブリーダープラグに『H8．H7差込口』を差し込みます。

⑥

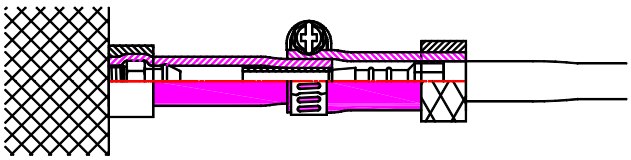


アウターリングがブレーキ本体にピッタリと当る様にセットし、ブリーダープラグを廻し（ホースごと）引き抜き作業を行います。



『H8．H7用アウターリング』をブリーダープラグと重なる様にスライドさせます。

⑦



アウターリングがブレーキ本体にピッタリと当る様にセットし、ブリーダープラグを廻し（ホースごと）引き抜き作業を行います。

✓ストレートエアープラグ使用上の注意事項✓

アウターリングがスライドしにくい場合がありますがその際は廻りにオイル等を塗布して頂くとスライドしやすくなります。

～注意事項～

・本製品に限らず負圧を利用してのエアー抜き作業ではブレーキプラグのネジ部からエアーが構造的な問題で多少は入ってしまいます。（P．5参考イラスト4参照）
少しでもネジ部からのエアーを防ぐ為に、『ストレートエアーノズル』を組み入れておりますが、100%止まる物ではありません。

・吸引したオイルはタンク一杯まで入れるなど、タンクを倒す等により、エアー排出口から吐き出す恐れがありますので、八文目程度で中のオイルを処理してください。
タンク容量は2Lです。

・ホースは耐油性を使用していますが、使用状態等により劣化が早く進む場合があります。

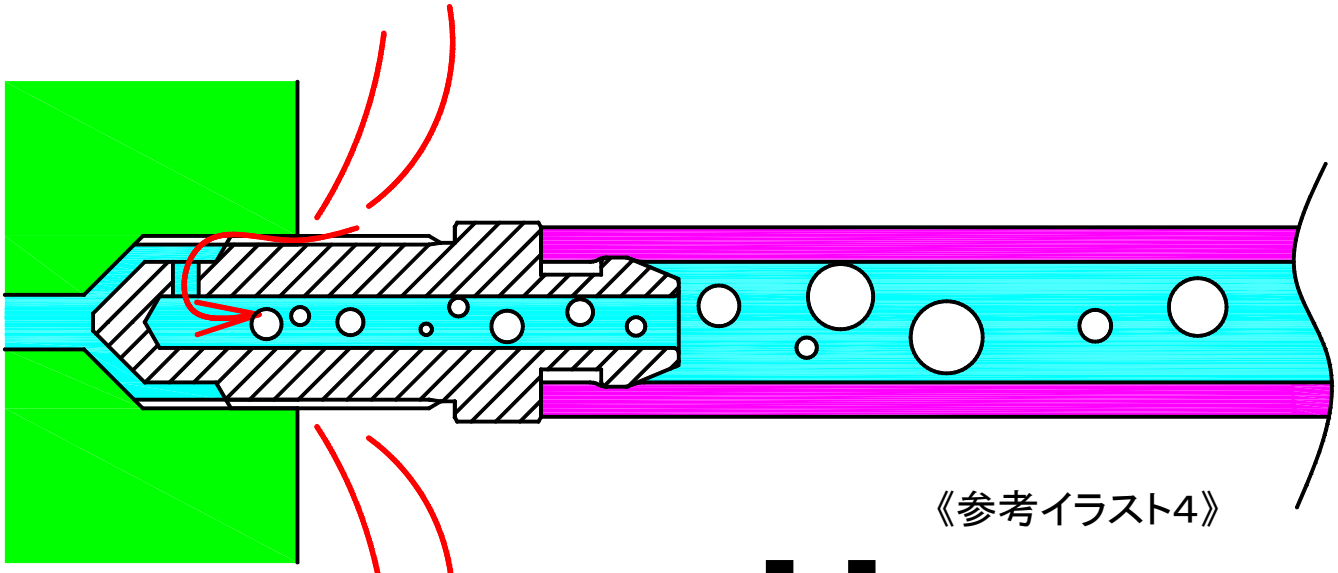
・エアー圧力は0．5MPa～1．2MPaの範囲内で使用して下さい。
特に高いエアー圧力で使用すると故障の恐れがあります。

・二輪車及び自動車のブレーキオイル専用機器です。
それ以外の用途目的には使用しないで下さい。

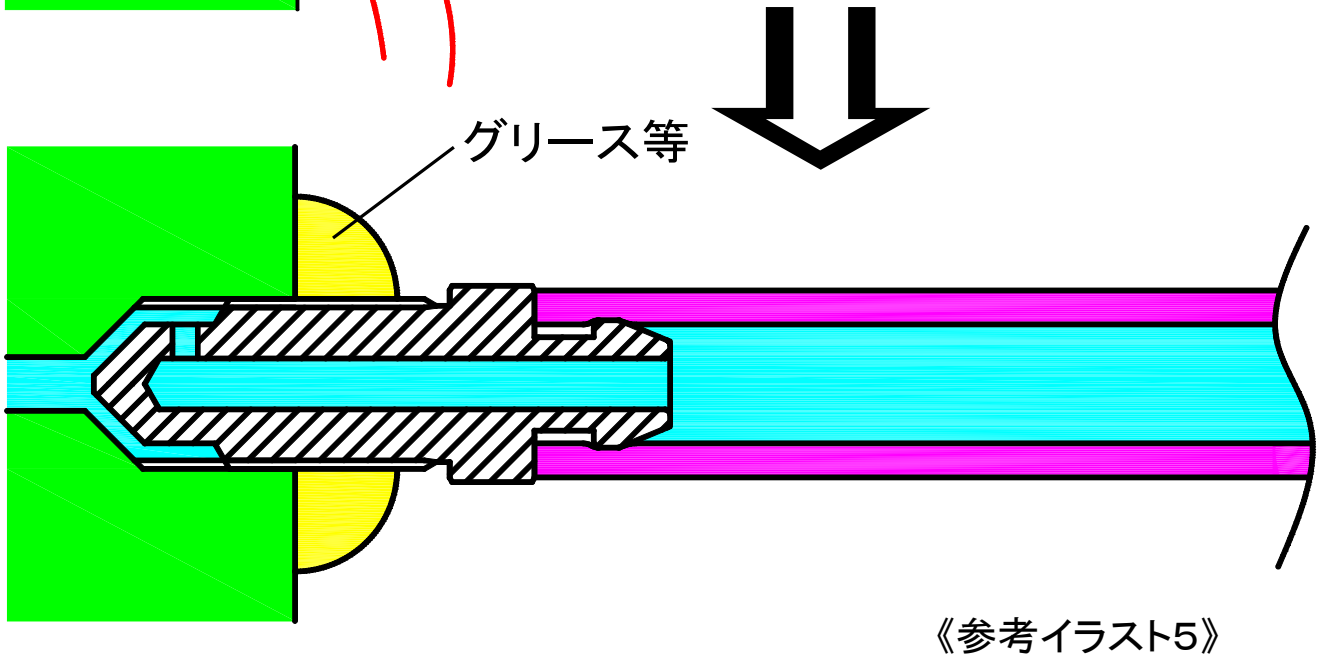
✔ 本製品はブレーキエアー抜きの補助工具です。

✔ ブレーキ制動は重要保安点検ですので、最終確認は必ず人の手によりエアー抜きの確認作業を行って下さい。

✔ 負圧式のエアー抜き作業時、エアーが混入した状態（エアー抜きが完了していない状態）が続くのは、ブリーダープラグのネジ部からエアーが流入している為です。
ネジ部の廻りにグリースを塗布して頂く事で、ネジからのエアー流入を防止しする効果があります。《参考イラスト5参照》



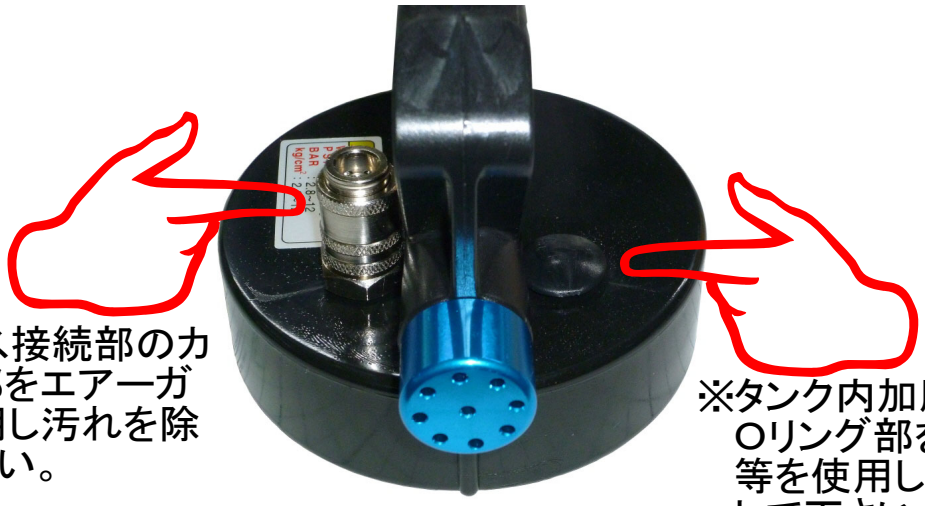
《参考イラスト4》



《参考イラスト5》

～定期的な各部クリーニング方法～

定期的に下記部位をエアーガン等を使用し清掃して下さい。

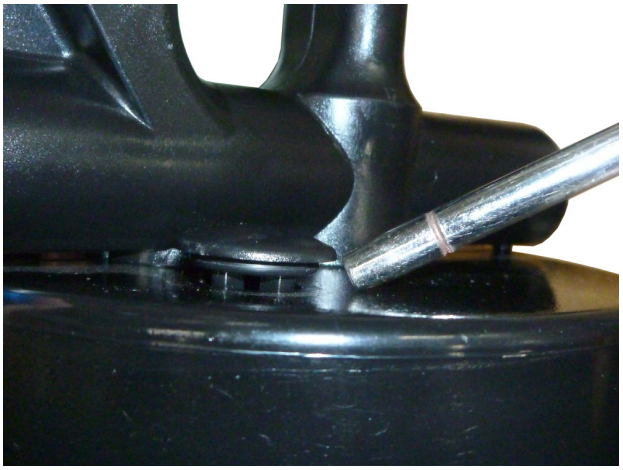


※ 吸引ホース接続部のカプラー内部をエアーガン等を使用し汚れを除去して下さい。

※タンク内加圧防止弁のOリング部をエアーガン等を使用し汚れを除去して下さい。



◎吸引ホース接続カプラー内部に異物等ゴミが有る場合、吸引力がさがりますので定期的に清掃して下さい。



◎上記Oリング部は隙間が有るとタンク内の負圧が逃げてしまうので必ず密着した状態で使用して下さい。



※タンク側及びハンドル内側のネジ部をエアーガン等を使用し汚れを除去して下さい。

◎ネジの締め付けが弱いとタンク内に充分な負圧が掛からず、吸引が弱くなりますので『しっかり』とネジは締めてご使用下さい。